

## 8/12～ 災害と人権

近年、東日本大震災、熊本大地震をはじめ、能登半島地震など大規模な災害がたくさん起きています。災害は、平穏な暮らし、働く場所、尊い命などすべてを奪っていきます。災害の後も、復興に向けて、多くの時間と努力、支援が必要になるでしょう。

ところで、災害時、私たちの人権は尊重されているのでしょうか。

今週は、災害を「人権」の観点から考えてみましょう。

災害はある日突然襲ってきます。あなたや、あなたの身の回りの人が、災害時、人権問題に直面するかもしれません。だからこそ、どのような問題が発生するのか、防ぐためにどのようなことができるのかを普段から知っておくことが大切です。

災害時には、情報不足やデマによる誹謗中傷・いやがらせや、避難所でのプライバシー侵害、支援が必要な方への配慮不足や差別などの人権問題が発生する場合があります。また、避難してこられた方の宿泊拒否や避難先の学校でのいじめなど、これらは不当な差別であり、人権侵害であるといえます。

また、避難所運営においても、配慮すべき点や課題を知っておくことが重要です。課題としては、プライバシーの確保、女性やこども、高齢者などそれぞれのニーズに合った支援物資の供給、外国人の方や視覚・聴覚に障がいがある方などへの正確な情報提供などが挙げられます。また、女性への性暴力やDVが起これやすくなることも、大きな課題となっています。人権に配慮した避難所運営に関するアナウンスや、プライベートゾーンの確保、生理用品の支給など、以前に比べると環境は改善されてきていますが、課題の解決には至っていません。まだまだ意識や支援体制などの改善が必要であると言えます。

災害時、自分自身の身の安全を守ることはもちろんのこと、困っている人の状況を周りの人が把握し、助け合えること、困っている人が“助けて”ということができるれば、より多くの命を守ることに繋がります。地域の人どうしの普段からのつながりや付き合い方、顔の見える関係づくりが、非常時に大きな力を持つのです。

災害などの非常時は、誰もが自分のことで精一杯になり、不安に襲われます。そんな中でも他者を思いやり、その心に寄り添う支援ができるよう体制を整えていく必要があります。そのためには、地域の一人ひとりが人権を守る意識を持ち、災害時に伴う人権問題を身近なこととして捉えることが大切です。

一人ひとりの意識が高まれば、より多くの命を守ることができます。普段から地域社会の一員として、人権についての理解を深めていきましょう。